

個票 12 砂浜の保全 [海 2(2)②9-1]

(2010年作成)

配慮の視点	種の多様性への配慮	配慮項目	野生生物の生息・生育環境の保全・創出
配慮事項	多様な水辺環境の保全・創出		
配慮事例	砂浜の保全		

内容

●砂浜の保全

【解説】

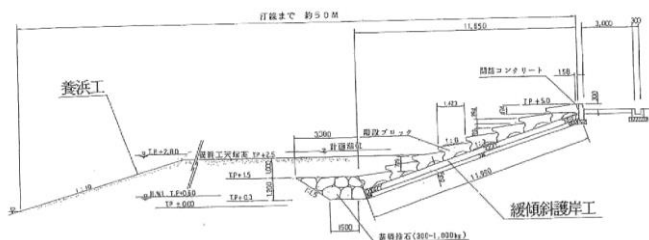
自然の砂浜は河川から供給される砂と流出する砂のバランスが保たれ、海浜植物による砂の付加、維持作用と相まって形成された海岸です。砂浜はアカウミガメが産卵場所として利用するほか、魚類のうち未成魚の期間だけ波打ち際を利用する種がいるなど、ある種の生物にとっては必要不可欠な環境です。また、砂浜に生育する植物の多くは希少種にあげられています。このため、現在ある自然の砂浜を極力保全することが生物多様性の保全につながります。また、やむを得ず消失する場合には、必要に応じて新たに創出することも検討します。

【具体的な工法・配慮事項】

砂浜を利用する生物は、生活史における砂浜の利用の仕方によって、いくつかのタイプに類型化され、砂浜整備を行うにあたり以下の配慮を検討します。

利用の仕方	代表的な種	配慮事項
産卵場	アカウミガメ	産卵環境の維持
成育場	ヒラメ、コチ	仔稚魚期に利用する浅場の維持(水深・底質など)
餌場	シギ・チドリ類	渡り途中の餌補給の場としての餌資源量の維持
定住	海浜植物	砂の移動や波浪の影響が生み出す分布域の維持

【事例 1】



出典:4

【場所】

兵庫県明石市 東播海岸

【環境配慮の内容と方法、工法】

- ・昭和 57 年度から人工海浜の整備を進めた結果、昭和 61 年にアカウミガメが産卵に訪れるようになった。
- ・平成 2 年度以降、C. C. Z. 整備地区の認定を受け、養浜（人工海浜・突堤）を行っている。
- ・平成 8 年度からは養浜前浜を石張によるレキ浜、玉石、砂と碎石の混合の異なるタイプで整備している。
- ・階段、スロープを設置して後背地との連絡を図っている。

【事例 2】

実験用浅場



出典:1・2

【場所】

兵庫県西宮市 西宮御前浜

【環境配慮の内容と方法、工法】

- 西宮市御前浜は、阪神間に残された貴重な自然の砂浜であるが、阪神間の富栄養化と埋め立てによる地形改変などにより、水質が悪化し、生物相の貧弱な海域となっていた。
- 御前浜の水環境をどうすれば良いか、地域の方々とともに検討して「貝が夏場も生息し、水に触れて遊べる海」を目標とし、ヘドロがたまった海底にきれいな砂を入れて浅場を広げ、本当に水がきれいになり生き物たちがすみつくのかを調べることにした。

留意点

参考資料

- 1 「御前浜水環境再生実証事業報告書 ー実証実験施設（浅場）造成編ー」（財）国際エメックスセンター
- 2 「御前浜水質再生実証実験のまとめ」兵庫県阪神南県民局
- 3 「エコ・コースト事業リファレンス・ブック」（財）港湾空間高度化環境センター港湾・海域環境研究所
- 4 「自然共生型海岸づくりの手引き」農林水産省農村振興局・農林水産省水産庁・国土交通省港湾局・国土交通省河川局